

毎日歌壇

水原 紫苑 選

伊藤 一彦 選

米川千嘉子 選

加藤 治郎 選

雨の夜に遠くつがひを呼んでる星図を抜け
し獣の声よ

△評△どの星座の獣だろうか。獅子座が百
獣の王の誇りも捨てて、妻を呼んでいるの
かもしれない。

哺乳類であることをふいに思い出し緑陰にお
くあわく溺れる

△評△もし卵生の命なら、もっとこの緑陰
に自由に戯れることができたろうか。

水蜜桃投げ合つてみよ 心には心の夕といふ
が来て去る

花などは後で見つければカラカラの花瓶が水を
欲しがつてゐる

肯定も否定もしない頷きが雨にうたれる病
葉にある

あなただけ海になるのね(水鳥のはるかな軌
跡) 名を忘れない

救済は平日のみにていづもの羊を巡りにメト
口に乗って

夕方に眠るのが好きカラスウリまだ開かれぬ
夜の白糸

夏虫は夏に死ぬゆゑ夏の虫あなたの椅子に夕
風が澄む

サーカスのために生まれた者たちの足裏に濁
る夏のみずうみ

実篤の人生論は古くまた新しいきなり梅雨の星
降る

△評△結句の「梅雨の星降る」が絶妙だ。雨
雲に覆われているような今の時代に、人間
信頼の実篤の人生論の価値を説いている。

「さんだんじゅう」新幹線の車内にて婦人
方がおせちを語る

△評△「散弾銃」でなく「三段重」と分か
りホツとしたという苦笑の歌。現代的。

戦争をせぬから日本に住みたいとコンビニレ
ジの若者は言う

許可も無く火星の石を持ち去った地球の人を
探しています

結婚と称した交尾の瞬間を家族そろって食卓
で見ると

よく冷えたトマトジュースを飲み干した 偶
発的に閃いた恋

会いに行くモチベも金も暇もあることを伝え
る勇気がほしい

川崎市 なるつ
八幡校ほどの細さと長さでも緊張させる自己
は百足

「おとど船あります」の旗靡きたる川筋に沿
ひわれも遡上す

閉店と書かれしドアにため息は吸い込まれぬ
くランチ難民

どの人も決めた日が有り杖を突き手押し車を
使つて歩く

△評△何気なく使っているように見える
が、少なからぬ葛藤や決意の末のことなの
だ。さまざま人生の場面に決意の日が。

通動のなか熊すずの響きをり音が振るく梅
田の地下に

△評△大阪府でも熊の出没情報があった。
地下街に熊が出たら、この思いがよまる。

ソータ水鼻に氷の冷氣触れ腿毛に沫の二三
が跳ねつ

図書館で泣いて幼子ぐすつて今日のは絵本の
気分じゃないと

茶碗洗えば 東京 井戸 純子
田圃のそれぞれに手が馴染みゆく家族四人の

胸を張るものひとつなき父の日の庭のあちこ
ちに草花を植つ

らんちゅうを我れの手抜きで死なせけり土に
還せば梅雨の遠雷

A-1の進化を凌ぐ脅威なり蛇口をひねるツキ
ノワケマは

母さんと引つぱりつこした布団の真綿あつ山
の上に浮かんでるよ

父母逝きて荒れし山家を懐かしむ心の遡上
にわれは戸惑ふ

故障したテレビがずっと映してる私と私の部
屋の一年

△評△不思議なテレビである。故障したか
ら奇怪な映像を映すのだという。一年じゅ
う監視されている状況を暗示している。

病院のベッドの上で神経衰弱洗った靴下持っ
てくる夫

△評△私はひとり神経衰弱で遊んでいる。
夫が靴下を洗濯している。生活がにじむ。

苦しいと認めるほうがくるくしてにげるあぶ
くがきれいなプール

くしゃみして笑った君を覚えてる 夏の入口
とても明るく

天気雨キリキリと降りあまつぶのどれかにき
みがいるかとおもつ

沈黙が返事になって夏の粒がこんなにもあ
しい岬

The in the hole 肌をすくすくかきめつて消え
るまの溜息

今日も来る住宅街にバトカーが 詐欺に注意
の音流し

未来の形をした電車が今日も一年前の万博へ
発つ

「夏まですか」日曜ですねと言ひ合つてはわれの位
置に生きてるふたり

投稿規定

はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100-8051(住所不要)毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、○○先生(希望選者名)係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム

(<https://mainichi.jp/kadan-haidan/>)でも受け付けています。

他媒体との二重投稿や同一作品を複数の選者に投稿するのは厳禁。投稿は趣旨を変えずに添削することがあります。入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句てふてふ」で公開します。



こちらから投稿できます